

# 富山大学アーカイヴズ・ニュースレター

—富山大学の未来をひらく恒常的なアーカイヴズ組織の設立を—

ARCHIVES NEWS LETTER

2019.3.28 第6号

アーカイヴズ設置検討準備室長 入江 幸二 (人文学部)

国や独立行政法人等の記録を保存・管理しすることを定めた公文書管理法（公文書等の管理に関する法律）が公布されて、今年で 10 年となります（施行は 2011 年より）。これを転機として、私立大学のみならず国立大学法人でも種々の記録を残すための組織作りが進んでいますが、そうした記録を扱う仕事の「専門性を明確にすることを目的」とする「アーキビストの職務基準書」が、昨年 12 月に国立公文書館によって作成されました（<http://www.archives.go.jp/about/report/syokumukijun.html> を参照）。そこには、種々の記録・文書の「保存」に加えて「評価選別・収集」さらには「利用」「普及」もアーキビストが担うべき職務として挙げられています。

もちろん昨今の情勢を勘案すれば、それらの条件を完璧に満たすアーカイヴ組織を本学で設置することは厳しいと言わざるをえないでしょう。ですが 70 年前に新制大学となって以降、本学はキャンパスの移転や様々な組織改編、3 大学（旧富山大学・富山医科薬科大学・高岡短期大学）の統合、そして都市デザイン学部の新設など、目まぐるしい変化を遂げており、なおも遂げつつあります。変化し続ける富山大学の記録を確実に残して整理・保管していくことは、変わらない本学の本質が何であるかを考え、本学の個性を主張していくための武器となりえます。

2014 年 3 月に発行された『富山大学アーカイヴズ・ニュースレター』準備号には、立川健治人文学部教授（当時）によって、「アーカイヴズが果たす役割は〔中略〕各大学の営みを記録し、保存、活用することで、自らの社会的使命をたえず検証し、明日の歴史を築いていくことに資する」と記されています。翌 15 年 4 月 1 日に「富山大学アーカイヴズ設置検討準備室」が発足し、4 年が経ちました。現在、これをより一層充実した組織とするための検討が進んでいます。本学の記憶をつかさどる組織となるようさらに尽力したいと考えております。



「旧制高岡高商・経済専門学校・高岡工専・工学部」跡碑（県立高岡高校）

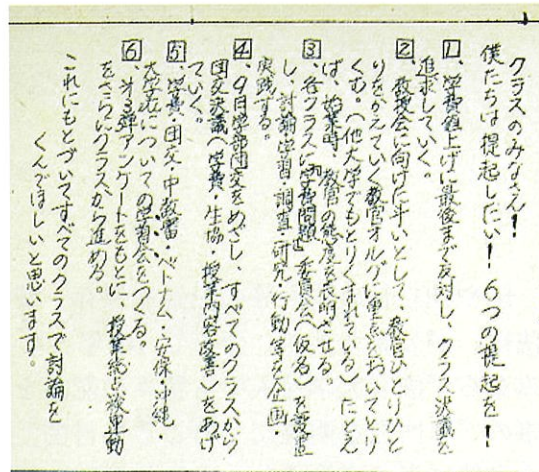
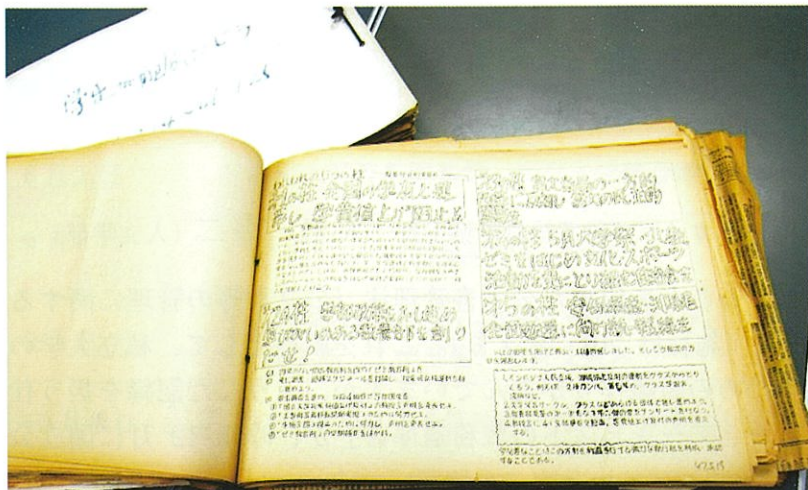


「旧制富山高校創立 70 周年記念時計塔」（富山駅・CiC ビル前）



## 学生運動関係の資料について

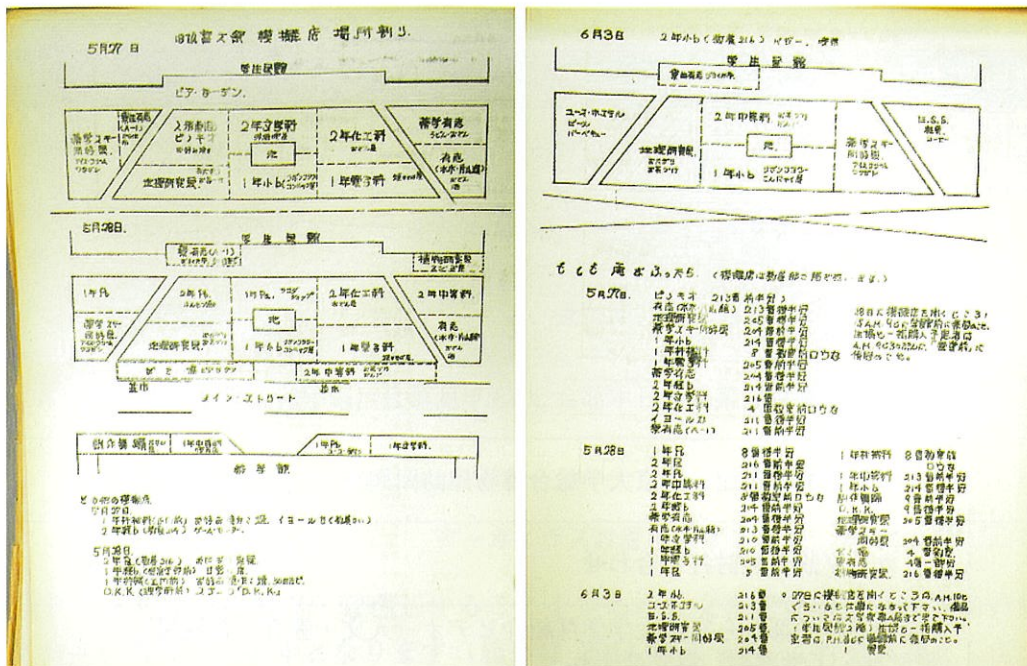
2月15日、「学生が配布したビラ 46.2月頃～47.7.6」と「学生が配布したびら 46.7.14～46.11.25」と表書きされた資料を譲りうけました。もともとは本学の事務職員の方が個人的に保存しておられたもので、3月にご退職される人間発達科学部の根岸秀行教授の仲介により、このたび本準備室が引き受けることになりました。



1968（昭和43）年の東京大学安田講堂占拠（および翌年の封鎖解除）をひとつの頂点として、今から約50年前に学生運動が大きな盛り上がりを見せたことはよく知られています。本学においても、1966年に表面化した経済学部の人事問題が大学の「旧体質」を示すものとして批判され、68年頃から学生による大学本部の占拠・ストライキ・正門のバリケード封鎖など激しい運動が occurred。そして1970年頃からは「政治セクトの集団、とくに新左翼諸派とよばれる集団が顕在化し」（『富山大学五十年史』96頁）、安保闘争・沖縄返還・三里塚闘争など政治的な問題とリンクしながら、学生運動はさらに過激化していきました。

受領した資料は、さまざまな学生組織が1971（昭和46）年から翌年にかけて発行したビラをまとめたものが中心で、各ビラの隅には鉛筆で配布年月日が書き込まれています。同じビラも多いのですが、厚さはそれぞれ9cmと4cmあり、当時の運動の活発さを物語っています。学生たちの要求は、上記の政治的なものを別にすると、①生協会館の建設、②学費の値上げ反対、③授業の改善、以上3点におおよそまとめられます。①は、広くて明るい食堂の建設を要求するというもの。②は1972年に国立大学の学費が12,000円から36,000円に跳ね上がったことに対する要求で、これをめぐってストライキや入学式の妨害行為などが生じています。③に関しては、教養部の学生にアンケートをとり、各教官の授業について改善すべき点などがまとめられています。たとえば「テープレコーダーひとつでまにあう授業は、もうゴメン！」の見出しで始まる『教養部ニュース』（1972年6月1日）には、〔講義〕ノートの棒読み、教官の説明より教科書の方がわかりやすい、といったふと我が身を振り返ってしまうような指摘もあれば、教室が狭い、声が小さいといった、学生数の増加に対応しきれない当時の大学の実態が透けてみえる指摘もあります。また、文学・日本史・体育実技・法学といった科目が教養科目にないことへの不満が多いという指摘もあり、学生のニーズと国立大学の教育のあり方にズレが生じていたであろうことが伺えます。

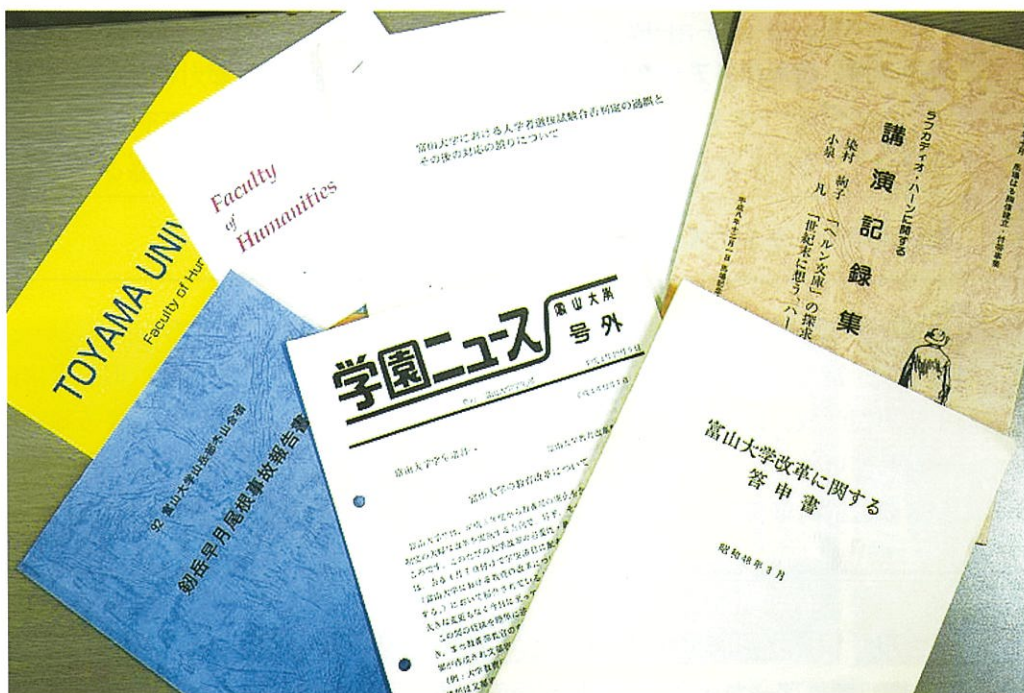
なお、政治的な問題や大学のあり方を問うビラが大半を占めるなか、富大祭（1972年5～6月）における模擬店の場所割りを示したビラや、クラブ活動の勧誘ビラ、学生によるものと思われる落書きといったものも若干ながら含まれています。単に学生運動を物語るだけでなく、当時の学生生活の一端を垣間見ることができる貴重な資料群であるといえましょう。



## 人文学部・大学改革関係等の資料について

上記の資料を拝受した同日、人文学部を今年度末でご退職される松崎一平教授より、いくつかの資料を譲り受けました。奇しくも学生運動の直後にまとめられた「富山大学改革に関する答申書」(昭和48年)のほか、教養教育の改革に関わる「学園ニュース」などの資料(平成4・5年)、1994年の人文学部パンフレットといった大学の変遷を物語る資料が中心です(写真はその一部)。しかし中には、当時きわめて大きな問題となった人文学部の入試ミス(平成9年度・10年度入試)に関する報告書や、不幸にも本学学生が亡くなった事故の経緯をまとめた「剣岳早月尾根事故報告書」(平成4年)も含まれています。

大学アーカイブは、大学にとって喜ばしい記録・記憶だけでなく、忘れてはならない出来事の記録を保存し、折に触れてそれを公の場に提示していくこともきわめて重要な役割です。ご退職される先生からこうした資料を拝受できたのは、大きな意味があると考えます。今後もこうした資料の受け入れを、(アーカイブ設置検討準備室の物理的な受け入れ能力を勘案しつつ)継続的に行っていきたいと考えます。



● 2018年度業務日誌（抄）（2018年4月～2019年3月）

2018（平成30）年	
3月29日～ 4月15日	大学展開催（中央図書館2階ロビー）
4月9日	卒業生家族より明治17年師範学校卒業生名簿について問い合わせ対応
5月20日	広島大学 大学関連史跡訪問調査
5月31日	全国大学史資料協議会東日本部会2018年度総会（國學院大學渋谷キャンパス）出席
6月1日	明星大学資料図書館、帝京大学総合博物館訪問調査
9月6日～ 2月6日	アーカイブ設置検討打ち合わせ
9月20日	人間発達科学部から富山大学学部紹介ビデオ（人文・教育・経済編）、 （理学部・工学部編）移管受入れ
10月1日	打合せ：30年予算執行、31年予算要求内容打ち合わせ、予算要求
10月10～12日	全国大学史資料協議会2018年度総会・研究会（九州大学 医学部100年講堂）
10月12日	西南学院大学西南学院史センター訪問調査
10月25日	学長選考関連資料総務部より移管受入れ
2019（平成31）年	
2月15日	人間発達科学部根岸教授から本学元事務職員が保管の学生運動（配布ビラ）等史料移管受入れ
	人文学部松崎教授から、大学改革関係等史料移管受入れ
2月27・28日	大阪大学にて「公文書館の課題と未来について」訪問調査
3月5日	畑中理事、磯部理事アーカイブズ設置検討準備室について事務引継
3月18日	大阪大学にて「アーキビストの職務基準書の作成経緯と概要」について訪問調査
3月28日	富山大学アーカイブズ・ニュースレター第6号発行予定

●お願い

富山大学（富山師範学校、富山女子師範学校、富山青年師範学校、富山薬学専門学校、旧制富山高校、高岡高等商業専門学校、高岡工業専門学校、旧富山大学、富山医科薬科大学、高岡短期大学）に関する様々な資料を収集することに向けて準備を進めています。ご寄贈もしくは貸与いただけるような富山大学の歴史に関する資料がございましたら、アーカイブズ設置検討準備室（Tel. 076-445-6232）までご連絡いただければ幸いです。

アーカイブズ・ニュースレター 第6号 2019年3月28日発行

編集：アーカイブズ設置検討準備室長 入江 幸二（人文学部）